

2022 年度 環境経営レポート

～エコアクション21～

活動期間（2021 年 10 月～2022 年 9 月）

－3 年計画 2 年目－

（2021 年度～2023 年度）



本社屋全景

株式会社 国土技術コンサルタンツ

発行日 2022 年 11 月 30 日

目 次

ごあいさつ	・・・	P3
I 登録事業所の概要	・・・	P4
II 主な環境負荷の実績	・・・	P5
III 環境経営目標及びその実績	・・・	P6
IV 2022 年度環境経営計画の内容と評価、2023 年度の取り組み		P8
V 環境関連法規制等の遵守状況、法違反、訴訟等の有無		P9
VI 代表者による全体の評価と見直し	・・・	P9
VII 環境経営の取り組み状況	・・・	P10

ごあいさつ

当社は1970年の創業以来、一貫して公共事業における業務を社業として参りました。

この間、測量業、建設コンサルタント業、補償コンサルタント業等の登録を行い、総合コンサルタントとして社業の充実に努めて参りました。これも皆様方の、ご指導ご鞭撻のたまものと感謝申し上げます。

さて、近年の異常気象や大災害等の頻発の原因に考えられている地球温暖化への対策は、世界的な課題となっています。豊かな暮らし、安全安心な社会を構築するための公共事業においても、低炭素社会の実現に向けた取組が強く求められてきております。

創業以来50周年を迎えた当社は、次世代に素晴らしい環境を受け継ぎ、持続可能な地球環境の実現に寄与するため、エコアクション21への更なる取組を通じて、CO₂の発生抑制や廃棄物抑制、排水量抑制等を実現し、社会に貢献できる企業を目指していくことを、今後の社業の指針としていく所存です。

環 境 理 念

地球環境を大切にし、次世代に継承するために、環境への負荷の低減に努め、環境にやさしい活動を継続的に行う。

環 境 経 営 方 針

<環境保全への行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組みます。

- ① 二酸化炭素排出量削減（電力・燃料の削減）
- ② 一般廃棄物排出量削減
- ③ 総水使用量の削減
- ④ 地域社会への貢献
- ⑤ 設計における環境への配慮

これらについて環境経営目標・環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束した事を遵守します。

3. 環境経営方針は全従業員に周知するとともに、社外に公表します。

制定日 2008年12月1日

改訂日 2021年4月1日

株式会社国土技術コンサルタンツ

代表取締役 安永 信一郎

I 登録事業所の概要

1. 事業所名及び代表者名

株式会社 国土技術コンサルタンツ
代表取締役 安永 信一郎

2. 所在地

本社 : 〒890-0008 鹿児島市伊敷2丁目14番10号
宮崎支店 : 〒880-0211 宮崎市佐土原町下田島 12219-132
霧島支店 : 〒899-5117 鹿児島県霧島市隼人町見次 1660 番地 4
始良支店 : 〒899-5652 鹿児島県始良市平松 6237 番地 2
奄美支店 : 〒894-0033 鹿児島県奄美市名瀬矢之脇町 12 番 19 号
熊毛支店 : 〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表 15121 番地

3. 環境保全関係の責任者及び環境事務局連絡先

環境管理責任者：代表取締役 安永 信一郎
環境事務局 : 管理部門長 岩切 靖志
連絡先：TEL 099-229-0030 FAX 099-229-0474
E-mail : kokudo@kokudoec.co.jp HP : <http://www.kokudoec.co.jp/>

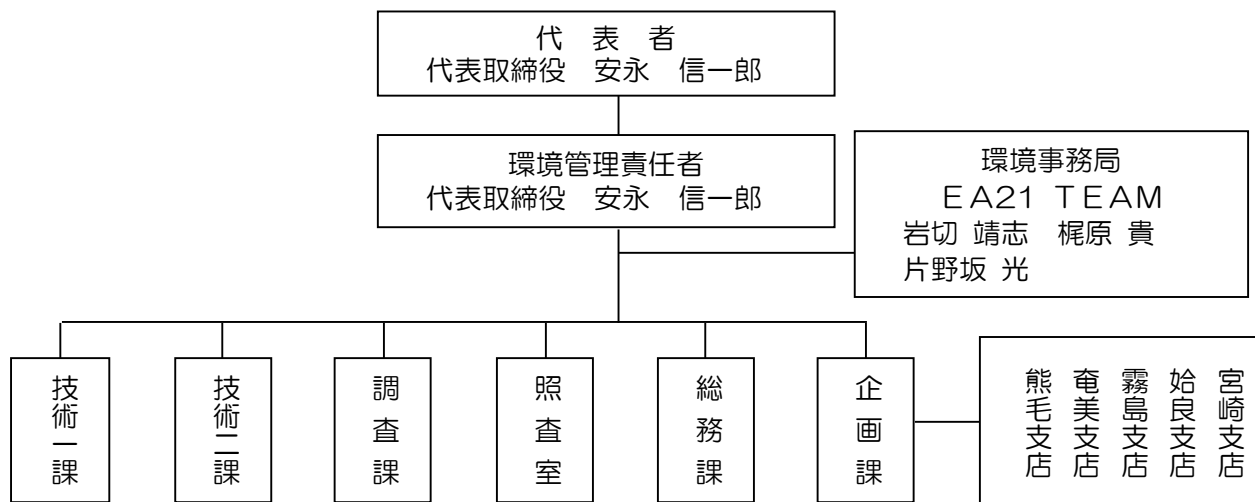
4. 主な事業内容（認証・登録範囲）

○測量業【事業許可】第(13)-3624号
○建設コンサルタント業【事業許可】建04第2342号
(河川、砂防及び海岸・海洋部門、道路部門、農業土木部門、土質及び基礎部門
鋼構造及びコンクリート部門)
○補償コンサルタント業【事業許可】補31第778号
(土地調査部門、物件部門、営業補償、特殊補償部門、事業損失部門)

5. 法人設立 1970年11月

6. 事業規模 資本金 10,000千円
従業員 43名
売上高 461,113千円(2022年度:2021年10月~2022年9月)

7. 組織 EA21 環境経営システム運用組織体制



II 主な環境負荷の実績

過去3年間の環境負荷の実績は下記の通りです。

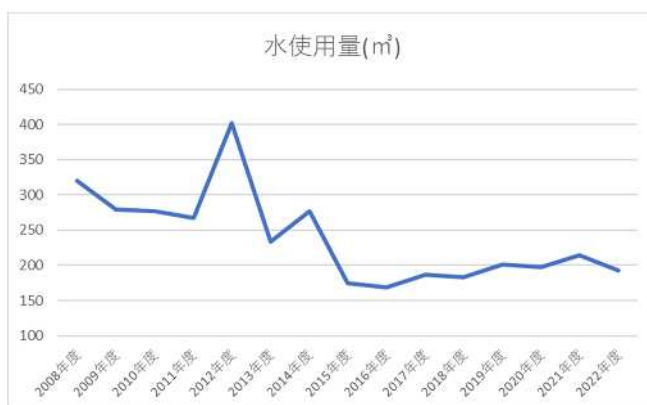
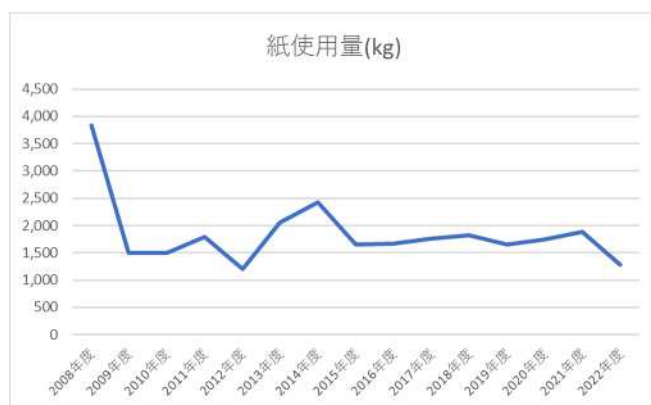
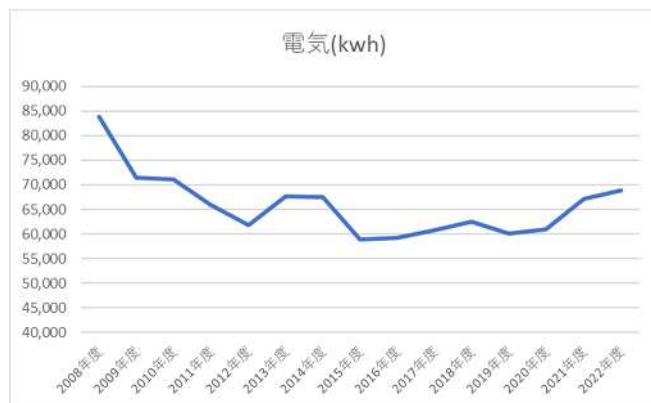
項目		単位	2020年度 2019.10~2020.9	2021年度 2020.10~2021.9	2022年度 2021.10~2022.9
二酸化炭素 排出量	電力	kg-CO ₂	29,235	32,169	33,024
		kWh	61,034	67,159	68,944
	燃料	kg-CO ₂	36,183	33,566	27,420
		ℓ	15,596	14,468	11,819
	合計	kg-CO ₂	65,418	65,735	60,444
一般廃棄物排出量 (紙使用量)	Kg	1,749	1,890	1,279	
水使用量	m ³	197.0	214.0	192.5	

※購入電力のCO₂排出係数：九州電力 2020年度調整後排出係数 0.479kg-CO₂/kWh

⇒比較を容易にする為に、基準年度時点の調整後排出係数を用いている

※購入燃料のCO₂排出係数：「単位発熱量」×「炭素排出係数」×44/12 2.32 kg-CO₂/ℓ

エコアクション取組み当初からの推移



Ⅲ 環境経営目標及びその実績

2020年度を基準年度として設定した2022年度（2021年10月から2022年9月まで）の目標と計画及び実績についての評価を行いました。

当社の業務は、測量業、建設コンサルタント業、補償コンサルタント業が主です。二酸化炭素排出量の殆どは使用電力量と測量設計、営業、打合せ等の車両のガソリンに伴うものであり、節電運動や効率的車両使用等が二酸化炭素削減の大きな成果につながります。

(1) 中長期目標

項目		年度	単位	2020年度 (2019.10 ~2020.9) 基準値	2021年度 (2020.10 ~2021.9) 目標値	2022年度 (2021.10 ~2022.9) 目標値	2023年度 (2022.10 ~2023.9) 目標値
二酸化炭素 排出量	電力の削減 (動力・照明)	kg-CO ₂ kWh	29,235	29,089	28,943	28,796	
			61,034	60,729 △0.5%	60,424 △1.0%	60,118 △1.5%	
	車両燃費 の向上 (ガソリン)	kg-CO ₂ km/ℓ	36,183 18.8	36,002 18.9 +0.5%	35,821 19.0 +1.0%	35,640 19.1 +1.5%	
合計		kg-CO ₂	65,418	65,091	64,764	64,436	
一般廃棄物排出量の削減 (紙使用量)		Kg	1,749	1,740 △0.5%	1,732 △1.0%	1,723 △1.5%	
水使用量の 削減		m ³ /人	5.50	5.47 △0.5%	5.44 △1.0%	5.42 △1.5%	
地域社会への貢献 (ボランティア清掃)		回	6 (当社主体で計画 実施したもの)	6 (維持)	6 (維持)	6 (維持)	
環境に配慮 した設計 (環境配慮案件数/ 対象案件数)		%	(63/63件) 100.0%	100.0% (維持)	100% (維持)	100% (維持)	

※購入電力のCO₂排出係数：九州電力 2020年度調整後排出係数 0.479kg-CO₂/kWh

⇒比較を照合する為に基準年時点の調整後排出係数を用いている

※購入燃料のCO₂排出係数：「単位発熱量」×「炭素排出係数」×44/12 2.32 kg-CO₂/ℓ

(2) 2022 年度の実績

項目		年度	2022 年度 (2021.10~2022.9)			
			基準値	目標値	実績値	判定 (実績値)
二酸化炭素 排出量	電力の削減 (動力・照明)	kg-CO ₂ kWh	29,235 61,034	28,943 60,424 △1.0%	33,024 68,944 +12.9%	×
		車両燃費 の向上 (ガソリン)	kg-CO ₂ km/ℓ	36,183 18.8	35,821 19.0 +1.0%	
	合計	kg-CO ₂	65,418	64,764	60,444	
一般廃棄物排出量の削減 (紙使用量)		Kg	1,749	1,732 △1.0%	1,279 △26.8%	○
水使用量の削減		m ³ /人	5.50	5.44 △1.0%	5.25 △4.5%	○
地域社会への貢献 (ボランティア清掃)		回	6 (当社主体で計画 実施したもの)	6 (維持)	6 (維持)	○
環境に配慮 した設計 (環境配慮案件数/ 対象案件数)		%	(63/63 件) 100.0%	100% (維持)	100% (維持)	○

2022 年度目標は、2020 年度を基準年度とした3ヶ年計画の2 年目にあたり、維持目標の項目を除きそれぞれ 1.0%の削減・向上の目標とします。

今回の3ヶ年計画からは新たな原単位の目標値として、水使用量の評価項目を「一人あたり水使用量の削減」として設定しました。

結果としては電力量の絶対値目標、ガソリンの原単位目標である車両の燃費の向上は目標を達成することが出来ませんでした。一方、一般廃棄物排出量（紙使用量）の絶対値目標、水使用量の原単位目標である一人あたり水使用量、地域社会への貢献(ボランティア清掃)、環境に配慮した設計では目標を達成することが出来ました。なお、ガソリンの原単位目標「車両の燃費向上」は未達成となりましたが、ガソリン使用量は減少という結果になりました。今後もできることから、全体の環境負荷に取り組んでいきたいと思っております。

IV 2022 年度環境経営計画の内容と評価、2023 年度の取り組み

1. 二酸化炭素の削減

(1) 電力量の削減

- ①節電運動の展開 ②不要照明のこまめな消灯 ③暖房、冷房の設定温度の厳守
- ④OA機器の節電

評価：電力使用量は基準年度に対し使用量が増加となりました。要因として、業務量の増加が起
因します。また、近年の気温上昇によるエアコン使用日数の増加も影響しています。今年
度は窓を二重窓・断熱ガラスに変更しました。来年度は社屋の照明の一部を残してほとん
どをLEDに変更します。また、省エネタイプのエアコンの更新を検討していきます。

(2) 車両燃費の向上

- ①エコドライブマニュアルの徹底 ②アイドリングストップの推進
- ③車間距離の遵守、急発進、急加速、急停車の防止 ④定期的車両の点検・整備
- ⑤エンジンの空吹かし防止 ⑥現場の事前確認によるムダ走行排除

評価：今年度はEV充電設備を会社に導入しました。来年度以降の車両更新計画を見直し、従来
のハイブリット車の推進のみならず、積極的にEV車の導入を検討していきたいと思いま
す。

2. 一般廃棄物（紙使用量）の削減

- ①コピー用紙の裏面を利用して、紙資源の節約に努める。

評価：紙使用量については基準年度に対し目標達成となりました。以前から取り組んでいる、ミ
スコピー防止の徹底と、電子FAX等のペーパーレス化を更に推進し、来年度も目標を達
成できるように取り組んでいこうと思います。

3. 水使用量の削減

- ①水使用箇所への節水表示
- ②節水の呼びかけ

評価：水使用量については今回計画期間から、原単位の目標値設定に変更しました。具体的に、
一人あたり使用量の削減を目標としました。今年度は基準年度に対し目標達成出来ました。
来年度も継続して、社員ひとりひとりの意識付けを促して目標達成を目指します。

4. 地域社会への貢献

- ①事務所周辺の道路や溝の清掃について日程を決め、実施します。

評価：地域社会への貢献活動（ボランティア清掃）は目標を達成することができました。雨天時
などは日程を変更するなどして、確実に計画を遂行できています。

5. 環境に配慮した設計

- ①本業である設計業務において、環境に配慮した設計、測量などを行う。

評価：環境に配慮した設計については公共工事の基となる設計について計画の段階から環境に配
慮することで後続の工事、また完成される社会資本についても環境を配慮した仕様になる
事を従業員に周知し、意識させることで今後も100%を維持できるように取り組んでい
きたいと思います。

V 環境関連法規制等の遵守状況、法違反、訴訟等の有無

1. 法的義務を受ける主な環境関連法規は次の通りです。

法規名	該当する項目
廃棄物処理法	一般廃棄物の適正処理
フロン排出抑制法	業務用エアコンフロンの簡易点検・廃棄時の適切な回収、破壊処置、保管
自動車リサイクル法	購入時のリサイクル料金支払い
家電リサイクル法	家庭用エアコン、冷蔵庫等のリサイクル適正委託（料金・伝票）
資源有効利用促進法	指定再生資源化商品（パソコン）を長期間使用し、メーカーへの引き渡し
鹿児島市環境保全条例	環境管理登録事業所として環境管理指針の遵守、毎年実績報告

2. 環境関連法規制等の遵守状況を定期評価した結果、環境法規制等の逸脱はありません。
また、法的違反や訴訟、苦情もありません。（2022年10月末現在）

VI 代表者による全体の評価と見直し

1. 環境経営活動の取組み結果の評価

2021年度より開始した3ヵ年計画の2ヵ年目でした。今回計画期間から、水使用量についての目標値を絶対量ではなく原単位に切り替え、社員一人当たりの水使用量としました。結果としては電力使用量の削減と車両燃費の向上の2項目で未達成、一般廃棄物排出量（紙使用量）、一人あたり水使用量の削減、地域社会への貢献活動、設計における環境への配慮は達成でき、6項目中4項目は目標達成となりました。

2. 実績の評価

電力使用量については基準値に対して（以下、いずれも基準値に対して）12.9%（7,910kWh）の増加、車両燃費については±0%となりいずれも目標未達成となりました。その中で、紙使用量については-26.8%（470kg）の削減、水使用量については一人あたり-4.5%（0.25m³）の削減となりいずれも目標達成となりました。また、ガソリン使用量は基準年度より3,777ℓ削減できました。

今年度は以前より検討を進めていた窓の二重窓・断熱ガラス化、EV車充電設備の導入を行いました。また、SDGsの取組みの一環として、オフィスカジュアルを導入しました。季節に最適な服装をすることで、空調設備の使用を減らし節電につなげていきたいと思っております。

電力量削減の施策として、来年度には社屋の照明の一部を残してLED照明に更新します。これらの施策を通して、二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいきたいと思っております。また、省エネタイプエアコンへの更新、EV車の導入を検討していきます。

企業活動を行っていくうえで、今すぐできることとまだできないことは現実としてありますが、できることをすこしずつ広げて、全体としての環境負荷の低減に取り組んでいければと思います。

3. 今後の取組み

次期 2023 年度は新たな環境経営 3 ヶ年計画の 3 年目になります。次期計画では目標未達成となっている電力使用量と車両燃費について、目標を達成できるよう全社を挙げて取り組んでいきたいと思ひます。また、並行してインフラ整備の可能性調査や実施にも注力して早期に目標達成、全体としての環境負荷の低減に取り組んでいきたいと思ひます。

VII 環境経営の取組み状況

オフィスカジュアルへの取組み



ご理解とご協力をお願いいたします

オフィスカジュアル を実施しています

実施期間 2022 8/1 ~ 2023 3/31

- 性別で隔たりのある服装ルールを見直し、ジェンダー平等を目指します
- 性別・年齢に関係なく、社会インフラを担う技術者として柔軟な発想力や想像力を発揮しやすい組織風土の醸成を目指します。
- 季節に最適な服装をチョイスできる環境を整え、空調設備の使用を減らし、CO2排出量削減に取り組めます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

国 国土技術コンサルタンツ

地域社会への貢献（ボランティア清掃活動）

国道3号歩道清掃

